

旭堂 南青 きょくどう なんせい

上方講談師

【生年月日】1980年6月4日 ふたご座 A型
【出身地】大阪府
【出身校】近畿大学 文芸学部 卒業

《経歴》

2004年 大学卒業と同時に旭堂南左衛門に入門し南青を名乗る。
2008年 4月14日NHKで放送されたドキュメント「挑戦！」でいずれも
ネタおろしとなる三席を披露した「旭堂南青・武者修行の会」と
それに向けての稽古の様子が放送された。
2009年～CATV、K-CATにて「生まれたるは関西」司会
2011年 4月～奈良テレビにて「ゆうドキッ！」
毎週金曜日 18:00よりレギュラー出演中
2014年 3月仏パリ日本文化会館でフランス語南京玉簾で好評を得る。
同年4月から東大阪市立縄手南中学校で
日本初の講談師アドバイザーリースタッフ就任。



「講談」と「落語」はどう違うの?「講談」「落語」はことあるごとに比較されています。その違いは一体どこにあるのでしょうか。簡単に言ってしまえば、「落語」が会話によって成り立つ芸であるのに対し、「講談」は話を読む芸という言い方ができます。勿論、読むといっても単なる朗読とは違い独特のしゃべ調子と小道具の使い方によって展開される訳なのです。よく使われる小道具として有名なのが張り扇と釈台(机)です。張り扇で釈台を叩きパパンという音を響かせて調子良く語ります。この小道具を巧みに使った芸こそ「講談」ならではのものです。

講談と講演：「社会科では教わらない歴史 語り継ぐ先人の決断～近大マグロ物語～」

戦後の食糧難の時代にあって、更に遠い未来の資源確保を見通して世耕氏が「海を耕せ。陸上の作物だけでは深刻な食糧難を乗り切れない。母なる海を耕し、海産物を育て国民に良質なタンパク源を届けよう」との決意から「羊飼いならぬ魚飼いを育成せん」と「有用魚類大規模養殖実験業」を提唱。しかし、実験は困難を極める上に高額な研究費用の為に近畿大学以外は皆手を引いてしまう。そんな心折れそうな矢先に「生き物は長い目で見なければ」と見守った近畿大学二代目総長世耕政隆。「魚を見ろ、魚に学べ、魚は死を以て抗議する」と励まし、志半ばで急逝した恩師・原田輝雄。そして様々な想いを受け継ぎ不屈の精神で困難を乗り越えた熊井英水と仲間達が繰り広げる人間模様の物語を講談で描く全編約40分の「読み切り」です！

☞世界で不可能と言われたクロマグロ完全養殖成功から見えるビジネスのヒントとは！？
経営者向けの講演に最適です

講談と講演：「若き秀吉に学ぶ～清洲城の三日普請～」

織田信長の居城、清洲城の城壁が洪水で崩れた際に、織田家の重臣が修復普請工事の監督に当たりましたが、だれが担当しても遅々として進みませんでした。そこで、手を挙げたのが木下藤吉郎。藤吉郎は、全部で百間（約180m）ある普請面積を10区画に分割して、各区画をそれぞれに人夫を割り当て、賞罰を明確にして、組ごとに競争させました。各組が受け持つ工区は十間（18m）。各組に対して、工区の一部だけを普請するのではなく、十間全体に対して土を積み上げる方法で行うように指示。この方法で普請を行えば、工事途中の城壁が高く積み上がっている組ほど、工事進捗が速いということになります。藤吉郎は、各組の成績（工事の進捗具合）をパッと見て一目でわかるようにしたのです。さらに、通常百文の日当を、一番高く積み上げた組は5倍、二番目の組は4倍、三番目の組には3倍にしその日のうちに支払いました。そして予定より早く完成させたら、日当とは別に褒美を出すことを約束しました。すると、それまで遅々として進まなかった普請工事が、わずか3日で完成したというのです。それを聞いた信長は「人間の力とは妙なものだ」と感心したと言います。完成までの日数は文献によって諸説ありますが、藤吉郎が他の重臣たちのだれもがなし得なかった普請工事を短い期間で完了させたことは間違いありません。

☞藤吉郎から学ぶ、人夫を動機づけ、集団のパワーを発揮させるには！

リーダーシップ、チームワークをテーマにした講演や建築業（安全大会）での講演も好評